



和歌

本邦古く北<sup>北方</sup>之地方也

推古天皇御代朝野新聞社

の御代より為日長吉原

ありて、宇都宮近旁に

ありて、世に名を以て

書に代名として田代

とありて、氏考多し

出典中とありて、干山、

三ノ宮、日ノ、縣庁後

中、壯年中に好

者、多し、沙石、能、

由、布、し、多、又、

才、富、吉、中、考、

由、由、年、一、以、歌、

と、下、南、方、豊、

年、北、方、を、十、六、

年、之、折、也、

又、後、通、



居薄の志は既山海に  
おぬ所へは是を極し  
猶あるに義の

日常の事にして亦乃今

其の楚成を三に極し

力の事何事ありんか

法布トしし事多かりし

代常事多き故に亦今

事<sup>等</sup>中子極しめり亦亦小

中と極しし事今

物縣三一四五六し

西通りしを由極かりて

善の事極極極極

字部字の事程隔る所

は是の事一し由通り

事多し一し由通り

事多し一し由通り

又いつの事一し由

多し由通りし事一し由

何事ありし由通り

事多し由通りし事一し由

事多し由通りし事一し由

強費と納暖味左隣

事多し由通りし事一し由

強費お納暖味左儀

ふ御裁身今奉し

改良うとつおの子内務

文部与和日陳情委欠

少宗師白儀所言公證

七三二身沼る外つ

右國總言一孝任ヲ

市山二身十日以て行ハ

或備る三十一採女

市丸とちめし此有はり

今回、瑞是、西総り

振市縣由通行行時

也他をたりし此尚此地

所了る三十一、此有る

遺城を存せり

後多身取てふ子し多身

し権托る田子稲石

成家たしはるりて身丸

身別ふ子りてり

所、井生打接、子定を

たる身定を、打身

聖親の末人、取し、減

この後のりりてり

沼身守一、名、壯士

この後の様子とあり

沼倉守一君は壮士

あつて殴打せられ

及部部は夜身なれり

得し壮士、粗暴に固

くし此沼倉君は其

或は價直は是と信

了

此報を社、内子

多、人々は屋敷行

器の余り悪なり云

聞キ云レリモ假名

云北西院隊お然

凡ツくはまじめて

さいあれ、縁急を

さるりや平なりお

く、性一ツきぶ

仲島の講、名は成

減し、方よりし

双方は西席お

女部、

以上ありませぬ

名は傳

十月五

途中ノ徳の

或は價直是は十倍に  
了

此報を社内にお

き、人々を尾行推

察の余り悪なり云々

聞キムレシクモ假名取席に

う北西院隊お致

向ッく「ま」めて

さいあれ「縁急を  
ある

さるりや平の、おせり

く「性」ツギぶ年クハ

仲島の講、右「成文

減し、方よりしらやんし

双方の両席おる

内記、

以上ありませぬも言ハ

名「傳」

十月五日

途中ノ徳の板  
桑末、らやん

大隈公 田中清

執事 康平